

“戦争と平和”を考える番組

NHKスペシャル

完全復元 ガダルカナルの戦い

総合 8月11日(日) 午後 9:00～9:50

BS4K 8月17日(土) 午後11:00～11:50

太平洋戦争最大の分岐点となった「ガダルカナルの戦い」。今回、謎に包まれた死闘の克明な経緯を明かす戦闘記録を発見した。分刻みのタイムラインで、日米両軍がどう動いたのか。まるで戦場に居合わせたかのようにリアルに“復元”できる資料だ。そこから浮かび上がるのは、日米両軍の“知られざる一進一退の攻防”。従来、日本軍が「無謀な作戦」を進めたとされる「ガダルカナルの戦い」だが、当初は、アメリカ軍の方が厳しい状況にあった。なぜ日本軍は、敗北に至ったのか？そこには陸海軍の対立が影を落としていた。海軍はガダルカナルの陸軍を“囮（おとり）”として、米機動部隊を誘い出す作戦を敢行。陸海軍の足並みの乱れによって、兵員の輸送や補給は進まず、兵士たちは飢餓によって命を奪われていった。番組では、ガダルカナルの陸海空の戦場を3Dデジタル空間として復元。新発見資料から、ガダルカナルの戦いの完全復元に挑む。

#あちこちのすずさん ～戦争中の暮らしの記憶～

総合 8月10日(土) 午後9:00～9:50

いま、祖父母や家族に“食べ物”“オシャレ”“恋の話”などの戦争中の思い出を聞いて、SNSに投稿する若者が増えているのをご存じだろうか。NHKスペシャルでは「デジタル時代の戦争伝承」ともいえるこの新しい現象をとりあげ、スタジオで語り合う。きっかけは去年8月放送の「クローズアップ現代+」。大ヒット映画「この世界の片隅に」の主人公・すずさんのように厳しい時代を懸命に生き抜いた庶民の暮らしを取り上げ、#あちこちのすずさん というハッシュタグを立てたところ「自分も家族からエピソードを聞いた」という投稿がネットに殺到した。この夏、NHKスペシャルは「らじらー！」（ラジオ第1）や「あさイチ」とも連携して若者世代からエピソードを集め、アニメ動画やイラストで再現。「すずさんたちの青春」を鮮やかによみがえらせる。映画「この世界の片隅に」についても8月3日(土)、総合テレビで放送。



特集ドラマ「マンゴーの樹の下で」

総合 8月 8日 (木) 午後10:00～11:13 (73分版)

BSP 8月21日 (水) 午後 9:00～10:30 (89分版)

BS4K 8月24日 (土) 午後 7:00～ 8:30 (89分版)

太平洋戦争の中で最も凄惨（せいさん）を極めたフィリピン攻防戦の渦中に、6000人以上の民間の日本人女性がいた。辛くも生き残った女性たちが書き残した戦争体験をもとにドラマ化。戦後の昭和・平成を生き抜いたヒロイン凜子を、岸恵子さんと清原果耶さんがリレーで演じる。

【あらすじ】 地域で長年親しまれてきた駅前の小さな写真館が、平成の時代に入り、店をたたもうとしている。その店は、凜子（岸恵子）と綾（渡辺美佐子）という二人の女性によって営まれてきた。だが綾が亡くなり、凜子はそろそろ潮時かと思い始めている。そこに一通の手紙が届く。昭和20年のマニラ空襲で亡くなったはずの、綾の弟からの手紙だった。フィリピン人社会に紛れ込み溶け込むことで生きてきた弟が綾の住所を探し出し、送ってきたのだ。凜子の胸に、あのルソン島の日々、そして、凜子と綾だけの秘密がよみがえってくる…。

【作】 長田育恵（「豊饒の海」「地を渡る舟」など。紀伊国屋演劇個人賞受賞の演劇界の俊英）

【出演】 岸恵子、清原果耶、渡辺美佐子、山口まゆ、林遣都、大東駿介、福田転球、安藤サクラ、伊東四朗 ほか

Bs1 スペシャル

マンゴーの樹の下で ～わたしはこうして地獄を生きた～

BS1 8月 4日 (日) 午後10:00～11:50

BS4K 8月17日 (土)、18日 (日) 午後7:00～8:00※2夜連続

特集ドラマ「マンゴーの樹の下で」関連の長編ドキュメンタリー。

太平洋戦争中、日本の占領下にあったフィリピンには多くの日本企業が進出、「楽園の島」に憧れた若い女性たちも相次いで海を渡った。しかし米軍のフィリピン進攻が本格化すると日々は一変。マニラを脱出した女性たちは、密林をさまよう地獄の逃避行を続ける。毎日のように続く米軍の爆撃、ゲリラの襲撃。そして飢餓。精根尽き果て、仲間を、わが子を、見捨てざるをえなかった人も少なくない。逃避行の最中に作られた3千人の避難民名簿を手がかりに徹底取材。生存者の証言と残された手記から、マンゴー実る南国で「楽園」と「地獄」を体験した、女性や子どもたちの知られざる物語を掘り起こす。

歌に平和の願いを込めて

ラジオ第1 8月 9日 (金) 午後10:05~10:55

被爆74年となることし、長崎原爆の日を前に「平和を願う歌」の制作に取り組む人たちがいる。長崎市の離島・高島（たかしま）に住む男女5人の音楽グループ「RAINBOW MUSIC（レインボーミュージック）」。メンバー全員が、東日本大震災をきっかけに長崎へ移り住み、それぞれ仕事をしながら、長崎や福岡を中心に音楽活動をしている。これまで、8月9日には長崎駅近くの広場で開かれる平和を願うコンサートに参加してきた。そうした中、地元の人から「被爆地長崎のために平和を願う歌を作って欲しい」と頼まれ、曲の制作を考え始めた。

リーダーの奥山豊文さん（39）は「長崎に来てまだ6年。平和について深く考えて来なかった自分たちがどう向き合えるのか」と、葛藤の中で取り組んでいる。

戦争を知らず、長崎の原爆被害について詳しく知らなかった移住者たちが、被爆者をはじめ、長崎の人たちから学び、曲を作る様子を追ったドキュメンタリー。